

科目名	心理的アセスメント			担当教員	野村 香代	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	臨床心理士、公認心理師					
実務経験を生かした授業内容	医療機関での勤務経験に基づき、学校現場で求められる能力や行動アセスメントツールを取り上げ、検査内容や方法を説明する。					
到達目標及びテーマ	1.心理的アセスメントの目的と基本的な進め方を理解し、クライアントの主訴や状態に応じた適切な検査や手法を選択できるようになる。 2.主要な心理検査の特性や実施上の留意点を把握し、結果を多角的に解釈してクライアントへの支援のヒントを見出す基礎力を養う。 3.アセスメント結果のフィードバックにおける配慮事項を学び、クライアントの自己理解や多職種との情報共有に活かす視点を習得する。					
授業の概要	本講義では、心理的支援の基盤となるアセスメントの理論と実践を習得する。 毎回の講義では特定の検査手法（質問紙法、投影法、知能検査等）を取り上げ、前半の講義でその理論的背景や実施・採点の手続きを学んだ上で、後半はペアワーク等を通じて検査の実施と受検を実際に体験する。単に検査結果の数値を算出するだけでなく、検査場面での行動観察や受検体験を通じて、クライアントの心理状況を多角的に把握する力を養う。また、得られた結果をどのように統合し、クライアントの今後の支援に資する形でフィードバックを行うかについても、演習を交えて検討する。【デジタル技術利用 該当番号：①、③】					

授業計画	
第1回	イントロダクション：アセスメントとは
第2回	質問紙法とは
第3回	面接法とは
第4回	描画法とは
第5回	投影法とは
第6回	作業検査法
第7回	発達検査とは
第8回	知能検査とは
第9回	知能検査の実施
第10回	知能検査の評価
第11回	知能検査の報告
第12回	認知機能検査
第13回	発達障害の検査
第14回	学校で使用されるアセスメント方法
第15回	講義のまとめと最終レポート

事前学修		授業で取り上げる検査内容について、事前に配布する検査用紙・検査実施テキストを読み込んでおくこと。
事後学修		授業内で行った検査の意義や方法を整理し、自分で実施できるように復習しておくこと。
フィードバックの方法	振り返りシート、レポートは、必要に応じてコメントした後に返却し、質問事項に関しては講義で解説を加える。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	60%	①知能検査結果報告レポート(20%)、②アセスメントの基礎知識や実施に関するレポート(40%)

上記以外の試験・平常点評価		40%	①講義後の振り返りシート(20%)、②ペアワークへの取り組み(20%)
定期試験		0%	実施しない
補足事項	本講義は、公認心理師養成のカリキュラムとして組み込まれている科目であり、心理アセスメントに関する専門的知識の習得と、検査の実施・受検体験を含む。講義の性質上、受講人数に制限を設けている。そのため、将来心理職として対人支援に携わる明確な意思を持ち、本講義で得た知識や体験を将来の実践に活かす意欲のある学生の受講が望ましい。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	検査に必要な実施テキスト等は、講義前に貸し出す。			